

特産品で繋がる町

建築設計デザイン学科 3年 岩澤・倉川・佐藤

コンセプト

- ・特産品を販売することで常陸大宮市の方々のことを知ってもらい交流のきっかけに
- ・多種多様な特産品を活かし、にぎわいのある町へ

実現したいこと

- ・既存の建物の雰囲気を残しながら小規模なリノベーションをしたい(いろんな方が交流できる場)
- ・特産品を売ること常陸大宮の方々の知ってもらい、人と人が繋がるきっかけになってほしい

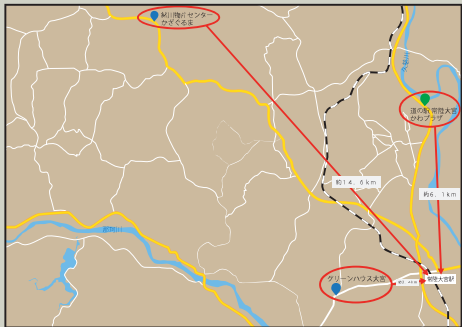
目的

- ・常陸大宮駅利用者の増加
- ・商店街空洞化の減少



ターゲット

- ・観光客
- ・常陸大宮市周辺の方々



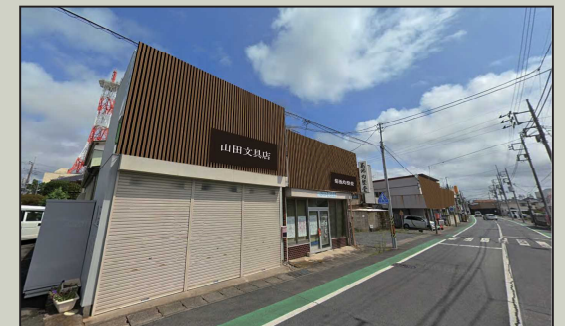
※ 特産品を取り扱う店舗が駅周辺に少ない



before



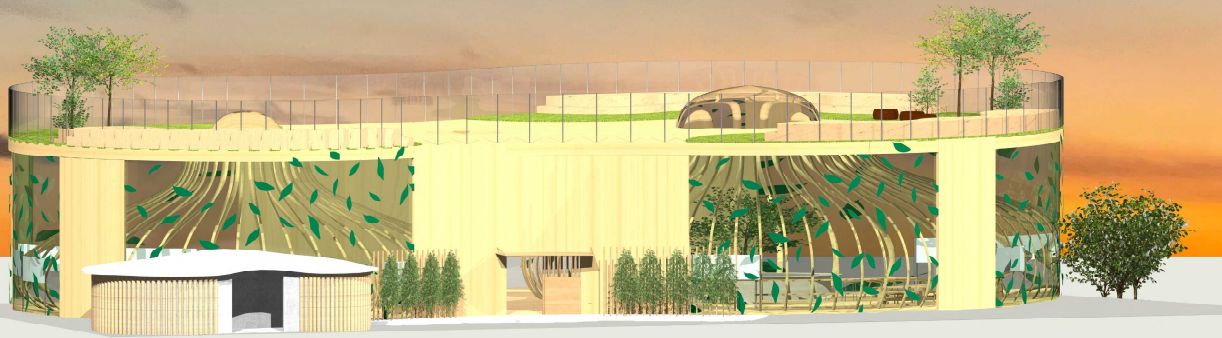
after



- ・外壁を木材で格子状に仕上げにして統一感を出す
- ・黒をベースにした板材に白文字で看板を取り付ける

ちゃどろ

～ 茶の香りに包まれる、心地よさを追求した茶建築 ～



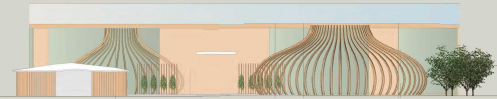
コンセプト 新産品 炭焼釜の正太郎茶

常陸大宮市には有名な銘茶がないため、ここに炭焼釜の正太郎茶を輩出させることで、常陸大宮に銘産品が輩出される。この過程に集ったことで、炭焼釜の正太郎茶の魅力に集ったことで、銘産品としての価値も高まっています。また、常陸大宮についても集まっています。

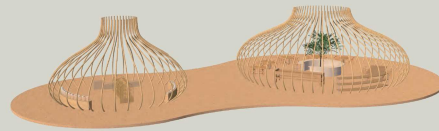
銘茶と建築の融合

外観
茶色を基調としたカラーリングを取り入れ、茶葉のオーガニックな質感を表現。茶葉は、遠くから運ばれてきたもので、茶葉の個性も大切に、建物の外観デザインにも反映させている。茶葉の個性が活かせるように、茶葉の外観でも感じられるようにデザインしています。

内観
茶葉は、銘茶を淹れる際に土や砂が入りやすいので、茶葉を淹れる際には、茶葉は重要です。このように、茶葉は茶葉を淹れる際の道具ではなく、その後の歩みによって、深い味わいや風合いが生まれるのです。



立面図



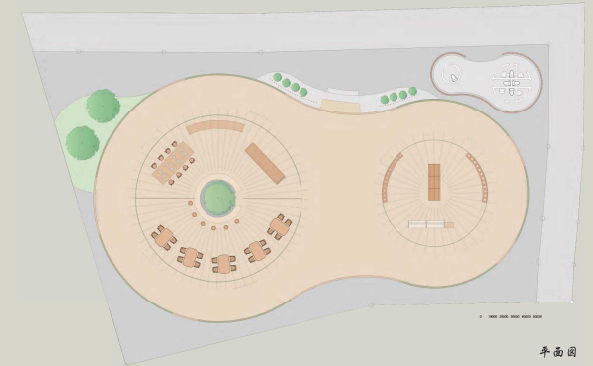
「炭焼釜 正太郎茶の魅力」をテーマに、茶葉の個性を表現しています。



ショップは、炭焼釜の正太郎茶を販売しています。お茶の個性を表現するために、常陸大宮市から取り寄せています。常陸大宮の銘産品を販売しています。



建物の最大の魅力は、茶葉の個性を表現しています。茶葉の個性を表現するために、茶葉の個性を表現しています。その個性を、休憩スペースでの茶葉を淹れることで表現しています。



平面図



茶葉を淹れて作る茶葉。茶葉が香り高く、味わい深い茶葉が淹れます。機械とは異なり、茶葉の個性を表現しています。茶葉の個性を表現しています。



訪れる人々に、「炭焼釜茶・正太郎茶・香自茶」の魅力・歴史・文化について詳しく理解していただく場所。



高品質の茶葉を淹れることで、茶葉の個性を表現しています。お茶の個性を表現するために、常陸大宮市から取り寄せています。常陸大宮の銘産品を販売しています。

つどう 集

遊 + 食 + 交流 → 繋がり
遊び・食・交流から繋がりを生み出す

建築設計デザイン学科 3年
高野直汰 中村亜由子 渡辺詩月

■計画地周辺の強み、弱み

- ・古い商店街が残っている
- ・駅が近い (水郡線 の利用者はほとんど学生)
- ・愛着がある人が多い
- ・車を止めるところがない
- ・賑わいがない
- ・目的地がない (行きたいところがない)
- ・公園がない
- ・空き家、空地、空店舗が目立つ
- ・周辺に自然が多く面している …etc

■解決策

- ・目的地となるものを各エリアで提案
- ・食を通して人の流れをつくる
- ・駅利用者の待合い、居場所づくり

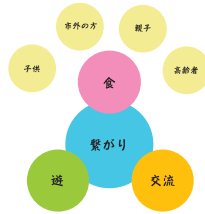
■ターゲット

- ・親子 (常陸大宮市内)
- ・子供 (小学生)
- ・駅周辺住民

■ゾーニングの考え方

繋がりをつくる要素として、
食・遊び・交流を取り入れる
その目的に沿ったターゲットを呼び込む

今、常陸大宮に住んでいる方々が
住みやすくなってほしい
→市内の方を呼び込む



■リノベーションエリアの活用

ファサードの統一化+店舗アイコン設置

↓
新しい駅の雰囲気に寄せ、
駅からつながる商店街に連続性を持たせるデザイン

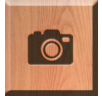
今ある看板などのデザインは、懐かしさを感じさせるため残し、
店舗外装を木のルーバーを用いデザイン
店舗アイコンは、どのようなお店なのかが一目でわかるようデザイン
駅前から敷地④までつながる歩道に屋根を設置



before



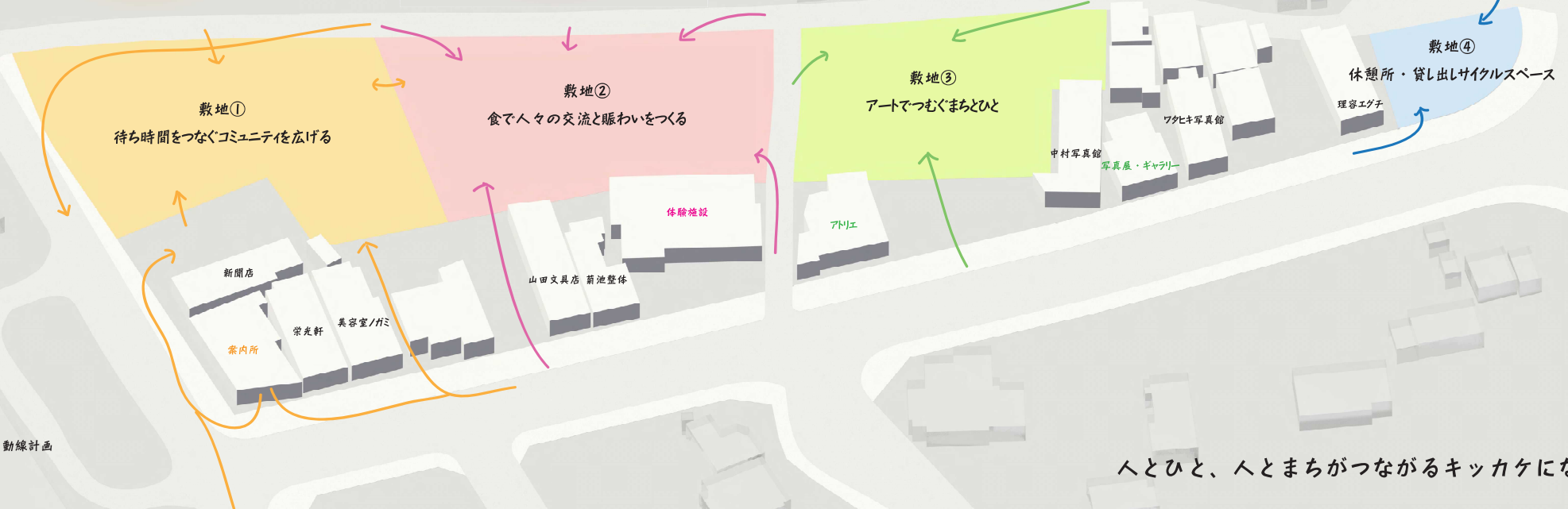
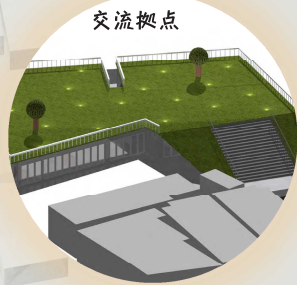
after



イメージ

■計画

・ひとが集まる要素として、各敷地で目的地を提案



人とひと、人とまちがつながるキッカケになりたい





アートで
つむぐ
まちとひと

アートでまちを彩る

なぜ常陸大宮にアート？
常陸大宮には、芸術家の方が多い。身近にいる方々から市民へ、と繋がりがやすいと書えた。また、地域を活性化させる目的でシャッターアートを行っており、まちとアートの繋がりが深いと感じた。茨城県北芸術祭の舞台のひとつとなった場所である。アート（芸術）と関係の深い場所だと思った。
常陸大宮は、子育てに力を入れているため、子育て世代や子供たちがアート（美術鑑賞）に触れることで、刺激になると考えた。

アートの魅力

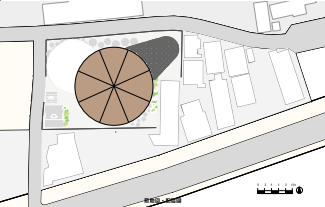
アートとは、多種多様な形で表現される情緒や視点、社会的メッセージを伝達する手段。言葉だけでは表すことが難しい点と多面的で深遠。絵画や彫刻、建築といったアートは特性によって人間の感性を刺激し、新たな視野を開いてくれる。

アートでつむぐまちとひと

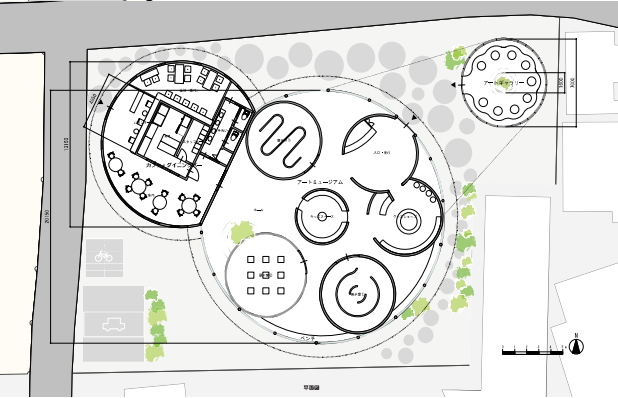
- まちとひとをつなぐ「橋」としてアートを、駅周辺のコミュニティと活性化を図る。
- ①インターネットなどの普及により、どこでも画面上で買われる環境が多くなった。身近にアートに触れることができる施設があることで、人が集まり、生活を越えた繋がりがや新しい出会い、豊かな感性を育てることができると思った。
 - ②アートという、生活から少し離れたものを駅前に掲げることでふらっと気軽に立ち寄れる場所にしたかった。
 - ③作家さんなどの作品だけでなく、市内の方、学生、子供の作品を飾ることで、より身近に感じてもらう。
 - ④ワークショップ等の開催で、アートに自ら参加してもらい興味を持ってもらう。
 - ⑤常陸大宮の特産品・名産品を使った建物をつくる。

ここから **つく** 常陸大宮の豊かな未来。

建築概要
計画地 茨城県常陸大宮市南町
敷地面積 956.25 m²
建築面積 475.927 m²



敷地図・配置計画
商店街側からも入れるようにするため、住宅をなくす計画。建物の向き、幅、高さ等を考慮。建物は、はなれたアートギャラリーも7室規模の規模をかけることで賑わいを持たせ、賑わいという点から、緑を確保し、円を多く使ったデザイン。



平面計画
円をモチーフに計画。カフェ・ダイニングバーは、階段とテーブル席、カウンター席を設けて広々とした。アートミュージアムは、展示室を4つ、展示に合わせた空間の演出。キッズスペースはガラスショップも設置。アートギャラリーは、ベンチテーブルを設置。ワークショップの開催。アートスペースとして設置。アートミュージアム、アートギャラリー共に、屋根の下から入れるように計画し、雨等の出入りも考慮した計画とした。



北側立面図
どの層にも動きを持たせ、この形だけで常陸大宮に賑わいが生まれる動きを表現



商店街側からの誘導 小道を通り、階段入口へとつながる動線計画。



アートギャラリー フリースペースとしての開放。マガツカのアートや芸術家の方から学ぶアート体験等のワークショップの開催。

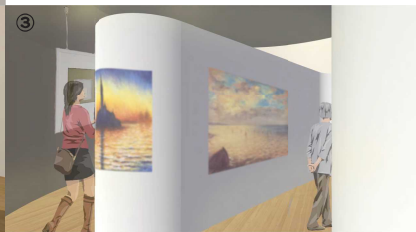


アートミュージアム
常陸大宮出身、または在居の芸術家の方の作品を常設展示。また、小中学校の生徒が作品制作する方々の作品を常設に開催。毎週金曜日を市民デーとし、市民の方は無料で入館ができる。

- 展示室①**
どのような展示があるのかが見えない、ワクワクするような誘導計画。
- 展示室②**
表面的な作品だけでなく、陶芸や地元の高校生の掛け花などの展示に似たい空間。
- 展示室③**
通路の上にも展示、観る楽しみせない動線計画。天井から吊るす展示も可能。



入口・受付 **グッズショップ**



キッズスペース **ホール**



カフェ・ダイニングバー
橋はカフェ、階段はダイニングバーへと個性を持った空間。店内の雰囲気アートを展示、手アートなどのメニューからアートを楽しむ。アートを観ながら、読ながら、食事を楽しむことができる。



この店舗では、アートギャラリーで企画するワークショップにて制作したマガツカを持帰ることで、ドリンクメニューの割引が受けられる。



グループテーマ 美しく長生きする町

AD3 戸田・松島



■コンセプト

昭和レトロ × 健康・美容

- ・昭和レトロな街並みを美しく長く保つ
- ・常陸大宮市の強みである“健康”を活かし人々が美しく長生きできる

■実現したいこと

昭和レトロ

- ・レトロ自販機

“レトロといえば”で最初に思い付いた

昭和世代には懐かしさを、Z世代には珍しさを感じてもらえるように

- ・広場
住む人の交流の拠点になる場所をつくる

健康・美容

- ・コスメショップ

日常的、毎日触れるものを楽しさやわくわくを感じてほしい

■常陸大宮市の現状

- ・人口減少、若者の地域離れ
- ・上記による商業の衰退
- ・高齢者の増加

■旧常陸大宮市

商店が隙間なくあり、常に賑わっていた
人口も今より遥かに多く所々で活気を発していた

■実現したいことのイメージ

レトロな街並みに興味を持った人たちに来てもらい常陸大宮市の人の流れを活発にしたい。
その中で常陸大宮市に興味を抱いていただいた方が移住してくれたら嬉しい。

■ゾーニング



昭和レトロ

水辺

レトロコスメ

美容

インナービューティー

心の健康

健康



■案内図・スキーム

① 昭和レトロな街並みが美しく長生きする

② 美容・健康で人々が美しく長生きする

■イメージ

レトロ自販機



外観イメージ



■イメージ

コスメショップ



■リノベーションエリア

商店街に統一感・一貫性を持たせるために庇をつくる。
また、昔ながらの商店街を運想させるため暖簾をかける

■イメージ



庇は日除けや雨除けの効果がある。
ヘルスロードを歩く人が少しでも快適に歩けるよう庇を設ける。
木のおたかみを感じてほしいので、木製とする。
また、照明を埋め込むことで商店街が優しい光で包まれ、明るく温かな空間を演出する。



暖簾には宣伝効果だけでなく、人目を店内に誘導する効果がある。
また、暖簾が出ているかどうかで「営業中」であるかを知らせる役目があるため、ヘルスロードを歩く人たちがお店に立ち寄りやすくなるのではないかと考えた。

Be Like

健康 × 美容が魅せる化学反応

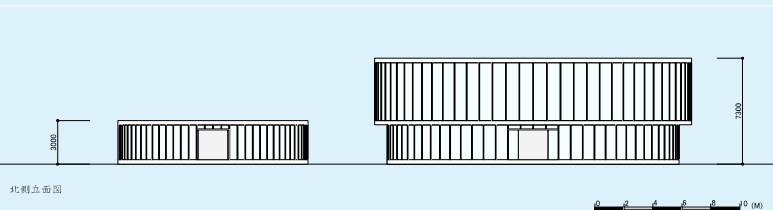


コンセプト 美男美女の町

グループテーマである美しく長生きする町をもとに個人のテーマを美容に設定した

「常陸大富市民が秘める美のポテンシャル」
美容をテーマにするにあたって、インナービューティーという点に着目した。インナービューティーとは食事を通して内側から健康な体づくりを目指す世界でも注目されている美容法。常陸大富市の特産品は野菜や果物だけでなくヒメリスや蜂蜜などの発酵食品も豊富である。これらの食品はインナービューティーに効果的だ。このような食材が身近にある常陸大富市では体の内側から健康になれる環境が整っている。さらに、常陸大富商街が経営しているコミュニティカフェ「インホク」やヘルスロードの拡張によるウォーキング道の促進等、健康的な生活習慣は常陸大富市民が美しく長生きできる要因だと考えられた。

「商店街との繋がり」
当店舗を活用して特産品の販売とインナービューティーに効果的な食べ方や調理法を提案する出店を設けたい。どこからでも店が見え、店舗の隅々を一掃できるため商店街側から敷地に入っても良い。



北側立面図

施設概要 コスメ専門店「美」のグレードアップ

「魅せる」視覚・ビジュアルを重視した建築物
近所は古風感のある目を見落とす。またレファの効果や肌の色を明るく見せるためである。ガラス貼りにすることで自然光を多く取り入れメイクがしやすい。化粧品の本棚の色が分かりやすいようにした。ガラスが「白」の間に透明感を与え、魅せる「目」を強調した「白」にした。夜は開閉後1時間程度電照のある色味の照明で鏡面を柔らかく光が包みこめるイメージ

「曲線美」流動的でしなやかな曲線
インテリアに曲線を取り入れることで空間に軽やかさや立体感を与え動きをもたらし、曲線を描いた目を惹くユニークな家具は美しく上品な印象を与える。

